

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームとしての理念は掲げているが地域密着型サービスとしての理念の見直しは現在進行中である。</p>	<p>ホームの特性を生かして独自の理念を作ろうとしている。年間目標を立て実践している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念に基づき各ユニットごとに目標を立て実践している。</p>	<p>各ユニットごとの介護目標を具体的に表現し各々のスタッフが共有でき実践して行きたいと思っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族の方々へのアプローチは出来ていると思うがなかなか地域のかたがたへの働きかけを取り組んで入るが出来ていない。</p>	<p>運営推進会議で自治会長さんから今後は地域の人々にもっと理解を深めることが出来るようにかかわりを持つ機会を多く持てるよう強力をいただいている。</p>
4	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>今まではあまり地域に受け入れていただけでなかった。存在もあまり知られていなかったが、いろいろなことで声をかけていただけようになってきた。自治会を通じて地域のかたがたに知っていただけるように努めている。</p>	<p>自治会のかたがたからも運営推進会議や、自治会の会議でいろいろと地域に溶け込んでいくための方法をアドバイスいただいているので、それを生かして行きたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入している。以前はなかなか地域に受け入れていただけなかったが昨年あたりからお誘いを受けることが多くなった。すべて参加できるわけではないので出来ることをさせていただいている。</p>	<p>当番制で近隣の公園の掃除があるが、時間的に参加が困難なため散歩の際など近隣のごみ拾いを行ったり、自治会の会議(2ヶ月/1回)に談話室を開放している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は特には行っていない		老人会や婦人会と共同し我々に出来ることはないが、スタッフと共に考えて行こうと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の意義は理解できているが評価を生かす努力はしているが実現できないでいると思う。		本社を交えて今後改善に向けて努力を続けていく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や要望はサービスの向上に向けて生かすよう努力している。		運営推進会議での意見や要望はサービスの向上に役立てることが出来るよう努力している。
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員の方とは管理者は交流があるがスタッフまでは及ばないことが多い。		研修の機会等を利用し交流を深めたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加したスタッフは学習しているが、その他はミニカンファレンス等で話しているが、詳細は話していない。		定期的に勉強会をもち学んでゆけるようにしたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したスタッフは学習しているが、その他はミニカンファレンス等で話しているが、詳細は話していない。		定期的に勉強会をもち学んでゆけるようにしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の契約時、解約時には十分に面接し説明を行っている。</p>	<p>なかなか理解できない事柄も多く数回にわたり同じ説明を行い理解を得るように心がけて行きたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に参加していただき意見をいただいている。日々苦情や相談を受けた事柄を運営推進会議や、幹部会議に議題としてあげ討議している。</p>	<p>今後も同様の手段で継続して行きたい。苦情や、意見が出しやすいよう意見箱などをもうけ足りてゆきたいと思っている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会時とうにはなす機会を持ち報告している。なかなか会うことの出来ないかたには電話をかけたり、手紙で報告している。全体については、2ヶ月/1回程度でホーム便りを発行し報告している。</p>	<p>同様の方法を継続させていきたいと思っている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の発足はないが、運営推進会議やお楽しみ会など家族の方々の集まった際お茶会形式で話し合いの機会を設けている。そこで出た意見は幹部会議で報告し、対応できるように努力している。</p>	<p>運営推進会議やお楽しみ会の際など家族のかたがたが集まった際のお茶会形式の話し合いの継続。認知症患者の家族の会等の紹介を行ったりフォーラムの参加を呼びかけていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフは日々の業務や利用者とのかかわりの中で気づいた事柄や、希望を常に管理者に報告している。幹部会議やリーダーミーティングにて討議し改善に向けて努力している。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要な時間帯にスタッフの確保が出来たらよいが、現実問題人員不足のため困難であり、出来ない。</p>	<p>本社との協議を行い勤務体制の中で可能な限りの柔軟な対応をしていく事が出来るように努力していく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>移動の際は徐々に馴染みの関係を作りつつ、保ちつつ出来るようにしている。たくさんのスタッフが移動することのないように考慮している。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ステップアップの資格取得者の優遇あり、また定期的に研修参加のため推薦をしている。</p>		<p>認知症介護者実践者研修への参加を継続。その他の研修も参加を呼びかけていく。法人内でも勉強会を計画していくことを提案していく。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域連絡会への参加、交流会への参加を推奨している。管理者が代表して参加することが多いが、リーダーの参加もあり交流を持てるよう導いている。</p>		<p>施設間での交流を持ち刺激し合い成長できるようにして行きたい。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>更衣室のロッカーの充実。休憩室の整備がなされている。年数回慰労会を催している。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>実績のあるスタッフはそれなりに評価されていると思われる。雇用形態の変更等で評価されている。介護感の違いから仕事に対する姿勢の差があり全員が向上心を持って仕事に望んでいるとはいえない。</p>		<p>スタッフ各々のレベルに合わせたかわりをし、向上心を持って仕事に望めるようにして行きたいと考える。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談の時点よりご家族・ご本人とお話していくようにしている。何でも相談できる人間関係を築けるように努めている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居相談の時点よりご家族・ご本人とお話していくようにしている。何でも相談できる人間関係を築けるように努めている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居相談の時点よりご家族・ご本人とお話していくようにしている。じっくりと話を聞き、今何が一番困難なことなのか、不安に思っていることなのか見極めるよう努める。ご本人・御家族の要望は何なのか見極め対応している。</p>	<p>介護サービスについての知識を深め、また保健福祉制度の知識を吸収し、柔軟に対応できるようにして行く。必要に応じて他のサービスの紹介を行っていく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在はお試し入居等のサービスはないが、入居の申し込みのあった方には見学の間やおやつやイベントがあれば訪問していただき馴染みの関係作りを進めている。</p>	<p>法人と協議の末お試し入居や今後空き室利用によるショートステイの申請を考慮していく必要がある。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々利用者と過ごす中で時には利用者と一緒に活動したり、見守る中で学ぶことは多くあり、学んだことを生かしていけるように努力している。</p>	<p>利用者から学んだことをより生かしていけるように努力して行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面会は自由で、申し出があれば外出外泊も自由である。面会時は家族で過ごすことが出来るよう配慮し、またケアにも一緒に参加していただくよう促している。行事などは案内を出し一緒に参加せいでいただけるように働きかけている。		今後も継続していきたい。
29 利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう に支援している	入居時に家族関係を情報収集し、入所後も生かすことが出来るように心がけている。入所前の情報は不十分なことが多いので入居後も機会があると情報を得るように心がけている。		今後も継続していきたい。
30 利用者にとって大切な馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係継続の支援 困難なケースが多くなったが出来るだけ墓参りやまつりごとの際には家族の方々と参加できるように支援している。馴染みの人との交流は可能な限り実現できるように家族への理解を求める等の支援をしている。		認知症の進行と共に遠方への外出の機会が減ってしまうが、これからも馴染みの関係の場所や、人とのふれあいは進めて行きたい。家族を含めた支援を行って行きたいと思っている。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のかかわりの中で無理やり仲良くするように支援するのではなく、互いが自然に打ち解けて仲良く出来るように声かけや、雰囲気づくりを心がけている。		スタッフは各々の利用者を十分に理解してかかわるようにし、自然な形で各々の利用者が互いに協力し合い生活が送れるように援助できるように支援していけるように心がけていく。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らない取り組み 必要に応じて相談や援助を行っていけるよう心がけている。		今後も継続していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来るだけ本人の思いに寄り添ったケアを目指しているが、コンタクトが取りにくく意思疎通が困難なケースが多いため利用者本位ではなく介護者本位になってしまっていることも多い。</p>	<p>言葉での把握が困難な場合でも、行動や表情から察して意思確認をしながらケアに望むことが出来るようスタッフは意識してケアに当たりたいと思っている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前に情報提供を求めそれをスタッフ間で共有している。その情報を基に日々の生活に生かして行きたいと思っている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の生活の中でいろいろなアプローチがなされ、各々の健康状態を把握し、出来ること出来ないことを把握してケアに当たっている。</p>	<p>今後も継続していきたい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人と意思疎通が困難な場合は家族をメインに話し合い、スタッフや往診医と相談したりケアマネージャーと相談しながらケアプランを立案しようとしている。</p>	<p>リアルタイムでの更新がなかなか出来にくいのが努めて行きたい。もっとチームでの話し合う時間を設け利用者のニーズに沿った計画を立てていけるよう取り組みたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にプランの見直しを行い、本人と意思疎通が困難な場合は家族をメインに話し合い、スタッフや往診医と相談したりケアマネージャーと相談しながらケアプランを立案しようとしている。</p>	<p>リアルタイムでの更新がなかなか出来にくいのが努めて行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、日々の様子等を記録している。情報を共有し実践に反映できるよう努めている。何か変化があればその都度話し合い、ケアに生かしている。		今後も継続していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来ていない		事業所の可能な範囲で努力して行きたい
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学生の訪問や中・高校生の福祉体験学習の受け入れ。ヘルパー受講生の実習受け入れを行っている。また行事の際にボランティアの受け入れを行っている。個別の必要性に応じての柔軟な対応は条件に見合ったボランティアが見つからず実施できていない。		今後も、学生のボランティアや地域の方々とのかわりを大切に行きたい。
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康管理のために2回/月で往診医に訪問してもらっている。定期外でも体調不良があれば指示を出してくれたり往診に来てくれたりする。家族への説明も医師からも詳しく説明されており、医師との信頼関係は築けていると思う。柔軟に対応可能な往診医に往診を依頼できるよう家族の方にも働きかけている。		今後も関係を保って行きたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科への受診を薦めている。内科の往診以外に心療内科への受診を薦め些細な心身の変化にも対応してもらっている。		今後も関係を保って行きたい。また、入院治療の必要な状態のときの受け入れ先も検討していかなくてはならない。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診クリニックのNSやホームのNSとの情報交換を行っている。ホームのNSには異常時には相談し判断を仰ぎ、医療との連携を図っている。		今後も継続していきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療が必要となった場合は入院になるが、現実問題受け入れ先がないのが現状である。入院が決定したら介護サマリーを送り、状態が安定したら退院できるようソーシャルワーカーと話をする。退院が決まれば往診医の強力を得ることが出来るようにしている。		病院のソーシャルワーカーと十分に話をして、行きたいと思う。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期から重度化した場合やターミナルケアのことについて家族や医師と話しているが、具体的にどういう風にするかは話せていない。重度化してホームで療養が決定してあわてたことがあった。		要望として受け止めるのみでなく、実践することを前提に話し合い具体的な方針を打ち出せるようにしていく。スタッフの学習会を段階的に設けていく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナル期の利用者へのケアが実施されるとき、十分にホームの方針が立てられておらず、どこまでなができるのかわからなく、医師とともに取り組んだが事業所として全体で出来たかという点で出来ていない。その場しのぎのケアであったと思う。		事業所の出来ること・出来ないことを見極め、医師との連携を図りチームとしてケアしていく事が出来るよう方針を固めて行きたいと思う。スタッフの研修の充実で知識を深め柔軟な対応が出来るようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>退去のケースでは介護サマリーを提供し詳しく生活全般の情報提供を行う。また入居の際も介護サービスを受けていた方は事業所よりサマリーの提供を依頼するようにしてケアに役立てている。</p>		<p>家族の方々とも話し合いながら今後も続けて行きたい。</p>
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への対応・言葉がけには注意している。個人記録は個別に保管しており個人情報は守られている。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>自分の思いをうまく伝えることの出来ない利用者には、わかりやすく間歇な言葉がけを行う様にし、ゼスチャーを交えて対話するように心がけている。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個人のペースで生活が送れるようなケアを心がけているが、時間に追われ、業務に追われ介護者の都合に任せてのケアになってしまっている。</p>		<p>各々のペースで自分の意思で生活が送れるような支援を目指したい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>近くに美容室があるが坂道がひどく全員が通う事が困難なため、定期的に訪問美容に来ていただきカットしてもらおう。自分で要求が言える方もいるが無理な方もいる。あらかじめスタッフが代弁している。入浴の際など衣服の選択をスタッフと供に行ったり好みの色・デザインを選ぶことが出来ている。</p>		<p>今後は、御家族の方のご協力やボランティアの導入などにより美容院へのお出かけが出来ればと思う。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みに合わせた献立は出来ていないが、盛り付けなどでの工夫はなされている。調理への参加はその方の出来ることはしていただいている。		もっと出来ることが沢山あると思われるので、スタッフは見守りに徹するように心がけたい。必要なおきにのみ手が出せるよう寄り添い見守りたい。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは好み物を購入し照り、選んだり出来ている。ホームでは禁酒・禁煙となっているため、飲酒・喫煙は出来ない。外出時に葉可能である。		今後も継続して行きたい。
56 気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。オムツはずしに向けて可能な限り努力している。		今後も継続して行きたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助・見守りの必要性の高い方ばかりであり、勤務体制の都合上スタッフが2人以上いる状態で入浴していただいている。時間が限定されている。		状況的に何かあったらと思い、好みの時間に入浴を実施していない。今後自立の方がおられたら実践してみたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	各々のリズムに合わせて睡眠・休息をとっている。布団干しやシーツ交換など一緒に行い気持ちよく休めるようにしている。		今後も継続して行きたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物をして、洗濯たたみなどの手作業にて気分転換をしていただいている。レクをしてみなで体を動かしたり工夫している。		季節の行事などにも触れながら、町に出かけたり、生活の中で楽しみを見つけることが出来る支援を続けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお小遣いはお預かりしているが、ご希望があれば小額持っただきご自身での管理を促している。御家族の協力の下行っている。		今後も継続して行きたい。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日用品や好みのおやつのお買い物などで出かけたり、近隣に散歩に出かけるが危険が伴い全員では無理があるため、1：1または1：2で出かけている。人員の問題で柔軟に支援できていない。		ボランティア等の強力を得ながら外に出かける支援を行いたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の方の理解の下で努力している。		今後も継続して行きたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話はないが希望があれば電話をかけていただき、手紙も促す。年賀状等季節の挨拶は行っている。		今後も継続して行きたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	親しい人達の訪問を歓迎している。自室でゆったりと過ごしていただいている。		今後も継続して行きたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行わないようケアに望んでいる。		今後も継続して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの構造上外に出たら階段があったり、すぐ道路であったり危険を伴うため、また不審者対策のため施錠している。		現在は鍵がかかっていることに対して不隠は見えないが今後弊害があれば考慮して行きたい。
67 え 利用者の安全確認	各々の所在を把握してケアにあたっている。行動パターンの把握や各々の身体能力を理解して見守っている。		今後も継続して行きたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を予測される物品は家族の方の了承を得て移動している。安易に除去しないで危険を回避する方法を考えるようにしている。		今後も継続して行きたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各々の利用者の状態を把握することが、異常と正常の判断に必要と指導している。それと併に、スタッフの知識の向上を図り柔軟に対応できるように研修会への参加、ホーム内での学習会を定期的に行う。		今後も継続して行きたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各々の利用者の状態を把握することが、異常と正常の判断に必要と指導している。それと併に、スタッフの知識の向上を図り柔軟に対応できるように研修会への参加、ホーム内での学習会を定期的に行う。		今後も継続して行きたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の夜間想定消防訓練を行っている。今後は地域の方に協力を得ながら進めて行く予定。		今後も継続して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>入居判定の後より生活に伴うリスクについて家族の方々にお話しする機会を持つ。その中でそのようにしていくことでリスクを少なく出来るのか一緒に話し合っている。中にはうまく話し合いの出来ないケースもあるが努力している。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>日々の生活の中で顔色・表情・言動により観察している。いつもと違うときは記録に残し、管理者に報告。異常時は管理者に報告し医師に連絡して対応してもらっている。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>管理者が服薬管理をしている。スタッフには細かな薬効の説明まではしていない。注意の必要な薬剤については大まかに説明している。定期的にラウンドし副作用については薬剤師・医師に相談している。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取を促し運動・入浴を促す。また果物や繊維質の食物の摂取を促している。医師に報告し緩下剤の処方を受けて排便コントロールを行っている。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>定期的に歯科医師の往診を受け口腔内チェックをしていただいている。また食後はマウスケアを行い口腔内清掃実施している。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>各々の食事量や、飲水量が違うため、各人に合わせた量の盛り付けや進め方をしている。食事9の際はバランスよく食べていただけるように声掛けをしている。水分は多めに声かけして、お茶の時間を多くしている。</p>	<p>今後も継続して行きたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルを基に実行しているが、今後見直しが必要。感染対策委員会で対応していく。		マニュアルの見直し
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	器具のハイター消毒等の処置がなされている。食材は前日に配達され使用することになっており衛生管理には気をつけている。		今後も継続して行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり工夫している。構造上の不都合があるがすのこの高さの調節をしたり椅子を使用して安全に留意している。		今後も継続して行きたい。
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適度の死角をつくり利用者がほっとできるような空間を作っている。		今後も継続して行きたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適度の死角をつくり利用者がほっとできるような空間を作っている。季節の貼り絵を作成したり花を飾り温かみのある雰囲気を作っている。		今後も継続して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの品を持っての入居を勧めている。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>定期的に空気の入替えを促し、換気には注意している。設定温度を一定に出来るよう定期的に居室をラウンドするよう指導している。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>危険を予測される物品は家族の方の了承を得て移動している。安易に除去しないで危険を回避する方法を考えるようにしている。段差が多い建物であり注意が必要であるが本社との相談で順次改修していけるよう働きかけている。</p>		<p>今後も継続して働きかけて行きたい。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一緒に作業をすることにより混乱は最小限に防ぐことが出来るのではないかとされる。一緒に行っていくようにしている。</p>		<p>今後も継続して行きたい。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭は日当たりの問題で花が育ちにくいいため工夫が必要である。室内には小瓶に花を生けたりして潤いを与えている。</p>		<p>本社と相談の結果庭の活用を考えて行きたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

これからの人生をゆったりと穏やかに過ごせるよう、その日一日一日を大切に生きることが出来るように支援していきます。また利用者及び家族の方の希望に沿ったケアを目指しています。